

科学技術外交について

科学技術・学術政策局

科学技術・学術戦略官(国際担当)付

第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)

初めて科学技術基本計画に「科学技術外交」という言葉が位置付けられる。

Ⅲ.我が国が直面する重要課題への対応

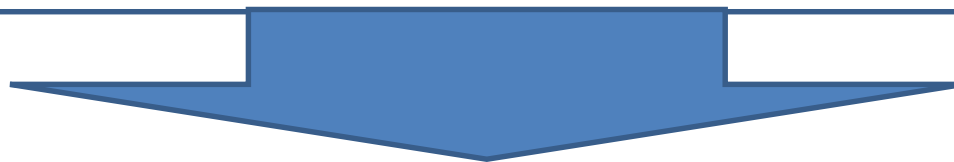
1.基本方針

「我が国の科学技術は世界でも有数の高い水準にあり、これを積極的に活用し、先進国から途上国まで重層的な連携、協力を推進することにより、我が国が直面する重要課題への対応、科学技術水準の向上、さらには、これらの外交活動への活用を積極的に推進する」

(略)

4.世界と一体化した国際活動の戦略的展開 (2) 科学技術外交の新たな展開

(略)



○第7期国際戦略委員会報告書(平成26年7月科学技術・学術審議会国際戦略委員会)

I. 科学技術イノベーションにおける国際活動の意義と基本的視点 (2) 科学技術外交の推進

科学技術イノベーションの発展を図る上で、科学技術と外交を連携させて、「科学技術外交」として戦略的に政策手段を講じることが、我が国の国益を増大させる観点から有効と考えられる。科学技術外交には、「科学技術のための外交(Diplomacy for Science)」と「外交のための科学技術(Science for Diplomacy)」の両方の側面がある。「科学技術のための外交」については、外交と連携させつつ、国際的なネットワークの構築・参画・発展を図り、更にそのネットワークを戦略的に活用することで、我が国の科学技術イノベーションの一層の発展が期待される。

○外務省 科学技術外交の在り方に関する有識者懇談会報告書(平成27年5月)

1. 科学技術外交の戦略的方向性 (2) 科学技術外交の戦略的アプローチ

科学技術外交には、一般に「科学技術のための外交」と「外交のための科学技術」の二つの側面が存在する。我が国はこれまで、「科学技術のための外交」においては一定の成果を挙げてきた。一方、「外交のための科学技術」については、より戦略的な取組とそのためのより実効的な基盤の強化が必要である。

第5期科学技術基本計画(平成28年1月閣議決定)

科学技術イノベーション政策の推進に当たっては、常にグローバルな視点に立ち、国際協調の中にも戦略性を持って取り組んでいくことが重要である。その際、国際頭脳循環の強化を図るとともに、日本の顔が見えるよう、我が国の科学技術を世界に向けて発信できる仕組みを、科学技術外交戦略の中に位置付けていく

科学技術外交について② 外務省参与（外務大臣科学技術顧問の活動）

外務省は、平成27年9月、「科学技術外交のあり方に関する有識者懇談会」（座長：白石隆政策研究大学院大学長（当時））が同年5月に外務大臣へ提出した報告書の提言を踏まえ、同年9月、初の外務大臣科学技術顧問として岸輝雄東京大学名誉教授を外務省参与に任命。さらに、科学技術の各種分野における専門的な知見を科学技術顧問の下に集め、外交政策の企画・立案過程に活用するため、「科学技術外交アドバイザー・ネットワーク」を構築し、その一環として、科学技術外交の関連分野における学識経験者16名を委員とする「科学技術外交推進会議」を開催。



岸 輝雄

外務大臣科学技術顧問
（外務省参与）

東京大学名誉教授
国立研究開発法人物質・材料研究機構元理事長



外務大臣の活動を科学技術面でサポートし、各国の科学技術顧問・科学技術分野の関係者との連携強化を図りながら、各種外交政策の企画・立案における科学技術の活用について外務大臣及び関係部局に対し助言を行う。

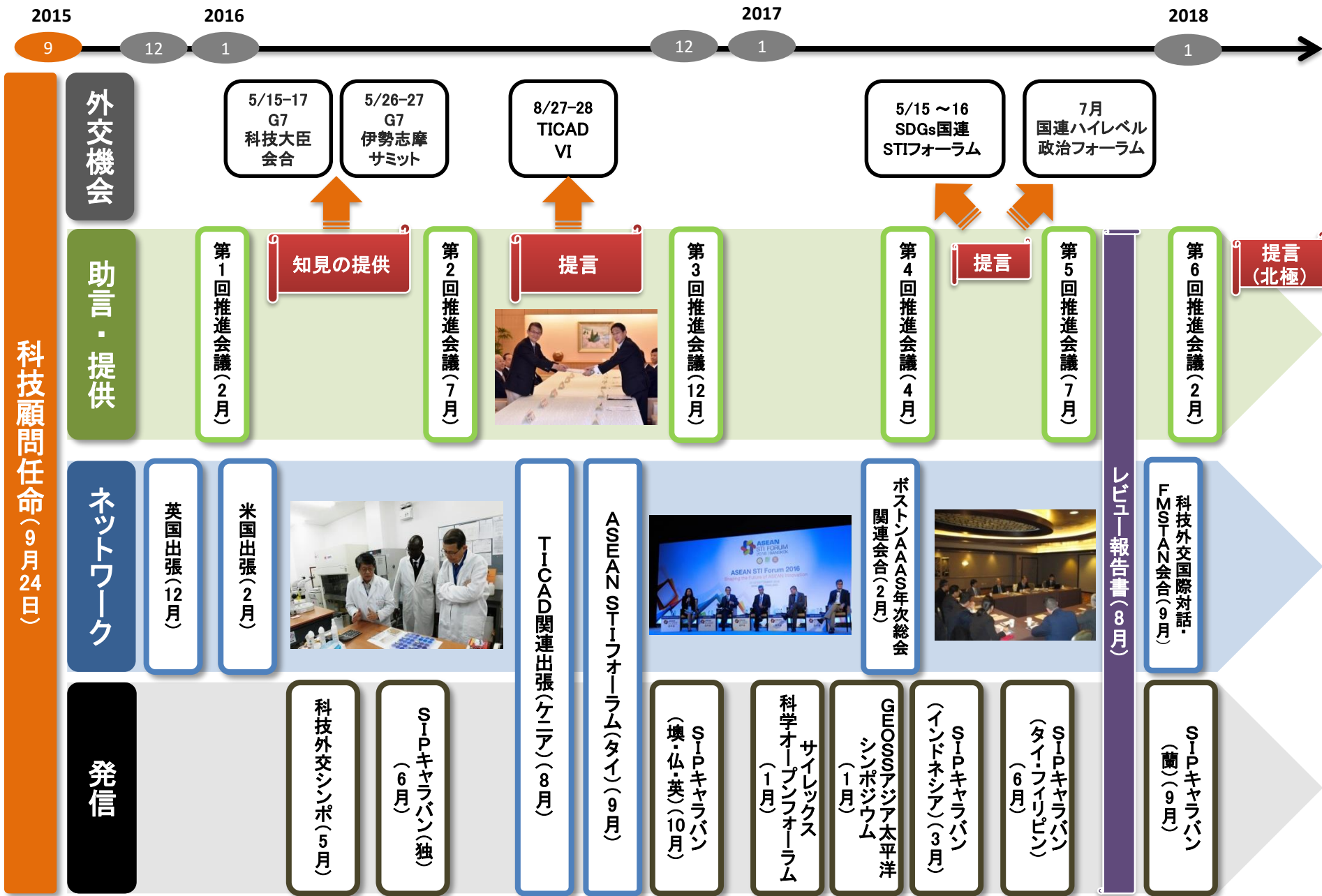
報告書・提言

- 岸外務大臣科学技術顧問によるTICAD7に向けた提言（平成31年3月14日）
- 岸外務大臣科学技術顧問による国連持続可能な開発目標（SDGs）達成のための科学技術イノベーションとその手段としてのSTIロードマップに関する提言（平成30年5月28日）
- 岸外務大臣科学技術顧問による北極域での科学的知見の活用に向けた提言（平成30年3月7日）
- 「外務大臣科学技術顧問のこれまでの活動と今後の方向性について」作業部会報告書（平成29年8月7日）
- 持続可能な開発目標（SDGs）実施に向けた岸外務大臣科学技術顧問による提言（平成29年5月12日）
- TICAD VIIに向けた岸外務大臣科学技術顧問による提言（平成28年8月15日）

科学技術顧問の活動状況①

平成31年4月

(参考)



科学技術顧問の活動状況②

(参考)

